

第2回三次市立小中学校のあり方に関する基本方針策定委員会（意見概要）

Ⅰ 三次市の教育に関する魅力・特色

【地域】

- ・教育資源（自然、歴史、文化・芸術、産業等）が豊富で、これらを活かした教育活動が可能である。
- ・多世代の人がいて、互いに語りあう文化があり、安心して学校と関われる関係性ができている。
- ・歴史・文化を大体の市民が知っており、郷土愛（アイデンティティ）を育む教育ができている。
- ・地域と学校が密接で、一体となって動いている。
- ・地域の生産物（主に米・野菜）を使った給食が提供されている。

【学校教育】

- ・学校教育を行う際に活用できる文化施設や多様な場がある。
- ・小中学校と市内高等学校の情報交換や連携がよくできている。
- ・県立三次中学校が設置され、進路の選択肢が増えている。
- ・県立学校の教育活動に市の支援がある。

【規模】

- ・小規模校と大規模校が両方ある。
- ・小規模校はたくさんの体験ができる規模である。

2 三次市の学校魅力化を実現するために必要なこと

(Ⅰ) 「みよし結芽人」を育成するための学校・地域の協働について

【地域】

- ・三次愛を育む取組（地元の歴史・伝統文化や特産品を知るなど）があるとよい。
- ・企業等の産業経済界も巻き込んだ第三者的な目線が必要である。
- ・外から自分の地域を見たり、自分の地域以外の地域の活動に触れる機会があるとよい。
- ・地域にも学校にも活力があることが求められる。
- ・地理的な地域に囚われない、「オール三次」で考えるとよい。
- ・地域の主体的活動がコミュニティスクールや協働的な学びにつながっていくことになる。
- ・他の地域とのコミュニティスクールの取組の交流や連携など市全体で取組を共有できるとよい。
- ・学校と地域との密接な関係ができるとよい。
- ・学校内外に子どもが参加できる多様な場があるとよい。

【学校教育】

- ・自分の好きや得意を極められる学校になるとよい。
- ・自ら考え、自己選択・自己決定することができる環境づくりが大切である。
- ・全く違う考えを聞く機会や人と関わり合い、助け合う生き方が楽しいと感じることができるとよい。
- ・各学校が特色を持った教育を実施し、自分が行きたい学校を選択できる環境があるとよい。
- ・子どもも教職員も楽しんで過ごせる学校になるとよい。
- ・農業や自然などを実際に体験する学習が大切である。
- ・ICTを活用した最先端の学習や、語学や多文化の学習、市外の地域・学校との交流ができるとよい。
- ・大人と子どもと一緒に試行錯誤して学んでいくことが大切である。
- ・失敗や成功をたくさん経験しながらステップアップしていける学習をすればよい。

(2) 児童生徒の多様化への対応について

- ・多様性を理解し、認め合える環境づくりができるとよい
- ・不登校の子どもが安心して通える場づくりができるとよい。
- ・子ども一人ひとりの意見が受け入れられる学級づくりができるとよい。

(3) 少子化の進行に対応するための学校規模・学級規模について

- ・多くの表情や会話を通して学び・成長していくために、一定の集団での学びの環境があるとよい。
- ・小規模校と大規模校がお互いに交流できる環境があるとよい。
- ・一人の力ではできないことを集団で実現できることを実感できる環境であるとよい。
- ・学校の配置について、小学校と中学校で分けて検討するほうがよい。